

TASCAM

TEAC PROFESSIONAL

D01047601B

FRONTIER

DESIGN
GROUP

HD-R1

Solid State Stereo Audio Recorder


クイックスタートガイド



目次

第1章 主な機能と特徴.....	3	第9章 設定をプリセットとして保存する.....	17
第2章 基本的なことから.....	4	第10章 オーディオファイルを編集する.....	17
オーディオファイル.....	4	第11章 ファイルを転送する.....	18
オーディオ以外のファイル.....	4	CFカードとUSBメモリ間のファイル転送.....	18
トラックとファイル.....	4	本機とコンピュータ間のファイル転送.....	18
フォルダ.....	4	第12章 ダッキング機能を使う.....	19
マーカー.....	4	第13章 外部から本機をコントロールする.....	19
プレイリスト.....	4	USB コンピュータキーボードを使う.....	19
オペレーションモードとメニューモード.....	4	パラレル制御を行う.....	19
設定の保存.....	4	シリアル制御を行う.....	19
記録メディア.....	5	第14章 メニューリスト.....	20
ファイルシステムフォーマット.....	5		
第3章 準備する.....	6		
接続する.....	6		
電源を入れる.....	7		
CFカードをセットする.....	7		
CFカードを取り出す.....	7		
時間を設定する.....	7		
CFカードをフォーマットする.....	8		
ディスプレイ画面.....	8		
ホーム画面.....	8		
メニュー画面.....	8		
パネルロックについて.....	8		
第4章 録音する.....	9		
録音に関する設定を行う.....	9		
録音の基本操作.....	10		
その他の録音機能.....	11		
メディア容量と録音.....	11		
第5章 再生する.....	12		
再生の基本操作.....	12		
再生モードを設定する.....	12		
その他の再生機能.....	12		
第6章 フォルダとプレイリスト.....	13		
新規フォルダを作成する.....	13		
カレントフォルダを選択する.....	13		
プレイリストを作成する.....	13		
カレントプレイリストを選択する.....	14		
第7章 マーカー機能.....	15		
マーカーをセットする.....	15		
マーカーにロケートする.....	15		
マーカーの名前を設定する.....	15		
マーカーを編集する.....	15		
第8章 システム設定を行う.....	16		
メーターの設定.....	16		
リジュームモードの設定.....	16		
シャトルモードの設定.....	16		
アナログ基準レベルの設定.....	16		
コントラストの調節.....	16		

第1章 主な機能と特徴

- ラックマウント可能な業務用/設備用ステレオオーディオレコーダー。
 - コンパクトフラッシュメモリーカード (CFカード) を録音メディアとして採用したメカレス (駆動部分を持たない) 設計により、振動に強く耐久性に優れた高信頼性を実現
 - CFカードを使い、安定した録音/再生が可能。
 - フロントパネルに装備のUSBタイプAポートを使って、USBストレージデバイスとのファイル交換やUSBコンピュータキーボードを使ったテキスト入力が可能。
 - 非圧縮オーディオのWAV形式 (16/24ビット) および圧縮オーディオのMP3形式によるファイルの録音/再生が可能。
 - MP3ファイルは、64/80/96/112/128/160/192/224/256/320kbpsの各種ビットレートに対応 (ステレオMP3時)。
 - 44.1kHz/48kHz/88.2kHz/96kHzサンプリングレートに対応。
 - モノラルまたはステレオの録音が可能。
 - 4秒毎に録音ファイルをクローズするフェールセーフ機構。
 - 再生信号とステレオ入力信号のミックスモニターが可能。
 - バランスXLRコネクタを使ったアナログ・マイク (20dB PAD付) /ライン入力およびライン出力を装備。
 - Euroブロックターミナル入出力を装備。
 - アンバランスRCA入出力 (-10dBV) を装備。
 - アナログ入力設定用として、フロントパネルにXLR/RCA入力切替スイッチおよび入力レベルつまみを装備。
 - リアパネルにファントムパワースイッチを装備 (フロントにインジケータを装備)。
 - S/PDIFデジタル入出力を装備。
 - ヘッドホンモニター用の標準ジャックおよびレベルつまみをフロントパネルに装備。
 - 非圧縮オーディオのWAV形式または圧縮オーディオのMP3形式による記録が可能。
 - 192 x 32ピクセルのバックライト付きLCDディスプレイ。
 - D-sub 25ピン・パラレルリモートインターフェイスを使って、トラック1~16のダイレクト再生コントロールが可能。
 - バイナリープレイモードを使うと、最大1023トラックの再生コントロールが可能。
 - RS-232Cシリアルコントロールポートを装備。
 - RJ45 100Mまたは10Mビット/秒のイーサネットインターフェイスを使って、コンピュータとのファイル交換およびコントロール (FTPおよびTelnet) が可能。
 - ひとつのファイルのみを再生、CFカードの全ファイルを再生、指定フォルダ内の全ファイルを再生、プレイリストを再生、ランダムに再生、といった各種再生モードをサポート。
 - 電源を入れると再生が自動的に始まるパワーオンプレイ機能を装備。
 - ダッキングモード (入力スルーとオートフェード機能) を搭載。
 - リファレンスレベルの切り換えが可能 (+15/+18/+20/+22/+24dBu)。
 - 一定時間毎 (1、2、3、4、5、10、30、60分) にマーカーを自動セットするオートマーカー機能。
 - プリファレンスファイルとマーカーファイルはXMLフォーマットで記述。
 - プレイリストでは、トラックの再生順序、トラックごとの再生開始点/終了点の設定、トラックごとの音量調節など、さまざまな設定が可能。
- * 仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。
- * 製品の改善により、取扱説明書のイラストなどが、一部製品と異なることがあります。あらかじめご了承ください。
- * CompactFlash® (コンパクトフラッシュ) は、米SanDisk社の登録商標です。
- * ティアック株式会社は、CompactFlash(R)および  商標の公認ライセンスです。
- * Supply of this product does not convey a license nor imply any right to distribute MPEG Layer-3 compliant content created with this product in revenue-generating broadcast systems (terrestrial, satellite, cable and/or other distribution channels), streaming applications (via Internet, intranets and/or other networks), other content distribution systems (pay-audio or audio-on-demand applications and the like) or on physical media (compact discs, digital versatile discs, semiconductor chips, hard drives, memory cards and the like). An independent license for such use is required. For details, please visit <http://mp3licensing.com>.
- * MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.



Fraunhofer Institut
Integrierte Schaltungen

第2章 基本的なことから

オーディオファイル

本機は録音を開始すると、カレントフォルダ内に新規のファイルを作成します [メインメニュー > **Folder**]。このとき、あらかじめ設定したプリファレンスに従ってオーディオファイル名が自動的に付けられます [メインメニュー > **Record Settings** > **File Base Name**]。本機は内蔵リアルタイムクロックを持っているので、ファイルは作成日時情報を保有できます。

本機は記録したオーディオデータに対する保護機能を備えています。レコーディング中に電源が突然切れた場合、失われるオーディオデータは直前4秒以内で、それ以前の録音データは保護されます。

オーディオ以外のファイル

本機はオーディオ以外のファイルとして、XML (Extensible Markup Language) 文書のテキストファイルを作成します。この文書は一般のファイルフォーマットで書かれていますが、文書の編集/変更を行わないでください。このフォーマットはトラブルシューティングなどを簡単にするために採用されたもので、コピーしてバックアップすることができます。

トラックとファイル

メディア上にはオーディオデータが「オーディオファイル」として保存されています。これらのファイルは、本機では「トラック」として扱われます。

しかがって、本書における再生や録音の説明では、オーディオファイルのことを「トラック」と呼び、メディア管理などの説明では主にファイルと呼びますが、実体としては同じものを指すとご理解ください。

フォルダ

新規に録音されたオーディオファイルは常にユーザーが指定したフォルダに収納されます [メインメニュー > **Folder**]。このフォルダはカレントフォルダと呼ばれます。デフォルトでは、トップディレクトリにオーディオファイルが格納されます。HD-R1の**Playback Mode**項目が**Folder**に設定されている場合 [メインメニュー > **Play Settings** > **Playback Mode**]、カレントフォルダ内の全ファイルを再生します。

HD-R1は第1階層フォルダ内のオーディオファイルのみを読むことができます。第2階層以降のフォルダ内にあるオーディオファイルは読むことができません。

マーカー

マーカーを使ってオーディオファイル内の特定のポイントを指定し、そのポイントにロケートすることができます。いつでも**MARK**キーを押すと、現在のトランスポート位置にマーカーが作成されます。シャトルモードを**Track/Mark Only**にしておくとメニューシステムを使わずに、**SHUTTLE/DATA**ホイールを使ってマーカーにロケートすることができます。さらに、あらかじめ指

定した時間間隔でマーカーを自動的に作成したり、特定の状況のとき (たとえば入力オーバー時) にマーカーを自動的に作成するように設定することもできます [メインメニュー > **Record Settings** > **Auto Markers**]。マーカー作成時には自動的に名前が付けられますが、あとから変更することができます。またマーカーの時間 (位置) を変更することもできます [メインメニュー > **Manage Folders/Files** > **Compact Flash** > {path to folder} > **View Files** > {filename} > **Edit Markers**]。ファイルにマーカーが付けられている場合にのみ、このメニュー画面にアクセスが可能です。マーカーは1メディア内に最大で256個設定する事ができます。

プレイリスト

本機ではプレイリストを使って再生するトラックのリストを作ることができます。プレイリストには希望のトラックを希望の順番で登録できます。通常は各トラック全体が再生対象ですが、トラックの一部のみを再生することもできます。

再生中、本機のプレイリストが参照するオーディオファイルを見つけない場合、次のトラックにスキップして再生を続けます。このときメッセージが表示されます。これはプレイリストを作成したあとでオーディオファイルの移動や削除を行ったときに起こります。

1つのプレイリスト内には最大で1023個のトラックを作成できます。

オペレーションモードとメニューモード

本機にはオペレーションモード (通常のトランスポートコントロールモード) とメニューモードの2つのモードがあります。オペレーションモード時に表示される画面を「ホーム画面」と呼びます。ホーム画面にはレコーダーの時間、メーター、ファイル名などの情報が表示されます。メニューモード時は、さまざまな各種メニュー画面が表示されます。オペレーションモードとメニューモードを切り換えるには**MENU**キーを押します。

設定の保存

本機は現在の設定を内蔵の不揮発性メモリーに保存します。したがって、本機の電源をオフにしても設定が保たれます。

本機は**Play Settings**と**Record Settings**をユーザープリセットとして内蔵の不揮発性メモリーに保存できるほかに、CFカード上に設定ファイルとして保存できます。したがって、再生作業/録音作業に合わせて、すばやく設定を切り換えることができます。さらに、何種類かの標準的なプリセットが用意され、多くのアプリケーションにおいて本機の再生/録音設定をワンタッチで切り換えることができます。

System SettingsもCFカード上のファイルとして保存できますので、将来再び使う可能性のあるシステムコンフィギュレーションをバックアップしておくことができます。**Play Settings**や**Record Settings**と同じように、何種類かの標準的な**System Settings**プリセットが用意されていますので、アプリケーションに応じて本機のシステム設定をワンタッチで切り換えることができます。

記録メディア

使用するCFカードのスピードや能力は、本機の性能に影響を与えます。古いCFカードや一部のCFカードの中には動作スピードの遅いメモリー部品を使っていたり内部バッファ容量の小さいものがあります。こうしたCFカードを使うと本機の録音性能に影響を及ぼす可能性があります。新しいCFカード（特に高密度DSLRカメラ用に作られているもの）は読み書きのスピードが速いだけでなく、保存容量も大きくなっています。タスカムのウェブサイトには、当社でテスト済のCFカードのリストが掲載されていますので、ご参照ください。（<http://www.tascam.jp/>）

本機ではタイプIおよびタイプIIのCFカードを使うことができます。タイプIはフラッシュメモリーチップをベースとし、ハードディスクカードに比べてスピードが速く、耐久性も優れています。タイプIIはCFハードディスクとして一般的に使われ、記録容量が大きいのが特徴です。本機では使用するCFカードの性能をテストして結果を表示することができます [メインメニュー > Utilities > Media Tools > Media Speed Check]。

以下の表は、4種類のレコーディングモードにおけるおおよその録音時間を、CFカードのサイズ別に示しています。

CFカード上の表記	44.1kHz モノ 32kbps MP3	44.1kHz ステレオ 128kbps MP3	44.1kHz ステレオ 16-bit WAV	96kHz ステレオ 24-bit WAV
512MB	35時間	8時間45分	0.8時間	0.25時間
1GB	70時間	17時間30分	1.6時間	30分
4GB	280時間	70時間	6.5時間	2時間
8GB	560時間	141時間	13時間	4時間
16GB	1120時間	280時間	26時間	8時間

ファイルシステムフォーマット

新しいCFカードを最初に本機にセットすると、メディアをフォーマットすることを確認するポップアップ画面が表示されます。本機は2GB以上のCFカードをFAT32でフォーマットし、2GB未満のCFカードをFAT16でフォーマットします。

Windows マシンの場合、デフォルトではすべてのカードをFAT32でフォーマットします。したがって、Windows マシンを使って2GB未満のカードをフォーマットする場合、FAT16を選択してください。

なお、日本語には対応していません。サポートされていない文字は"□"表示になります。

デフォルトでは、本機は新規オーディオファイルの名前に接頭文字として "Track" を付けます。この接頭文字は自由に変更することができます [メインメニュー > Record Settings > File Base Name]。ファイルとフォルダの名前は、いつでも名前変更画面を使って変更できます。同じフォルダ内のファイルやフォルダに同じ名前を付けることはできません。

メモ

名前は20文字まで入力可能です。

新規トラックが作成されるとオーディオファイルの接頭文字の後に001,002と番号が付けられていきますので、これを含めて20文字以内になるようにしてください。

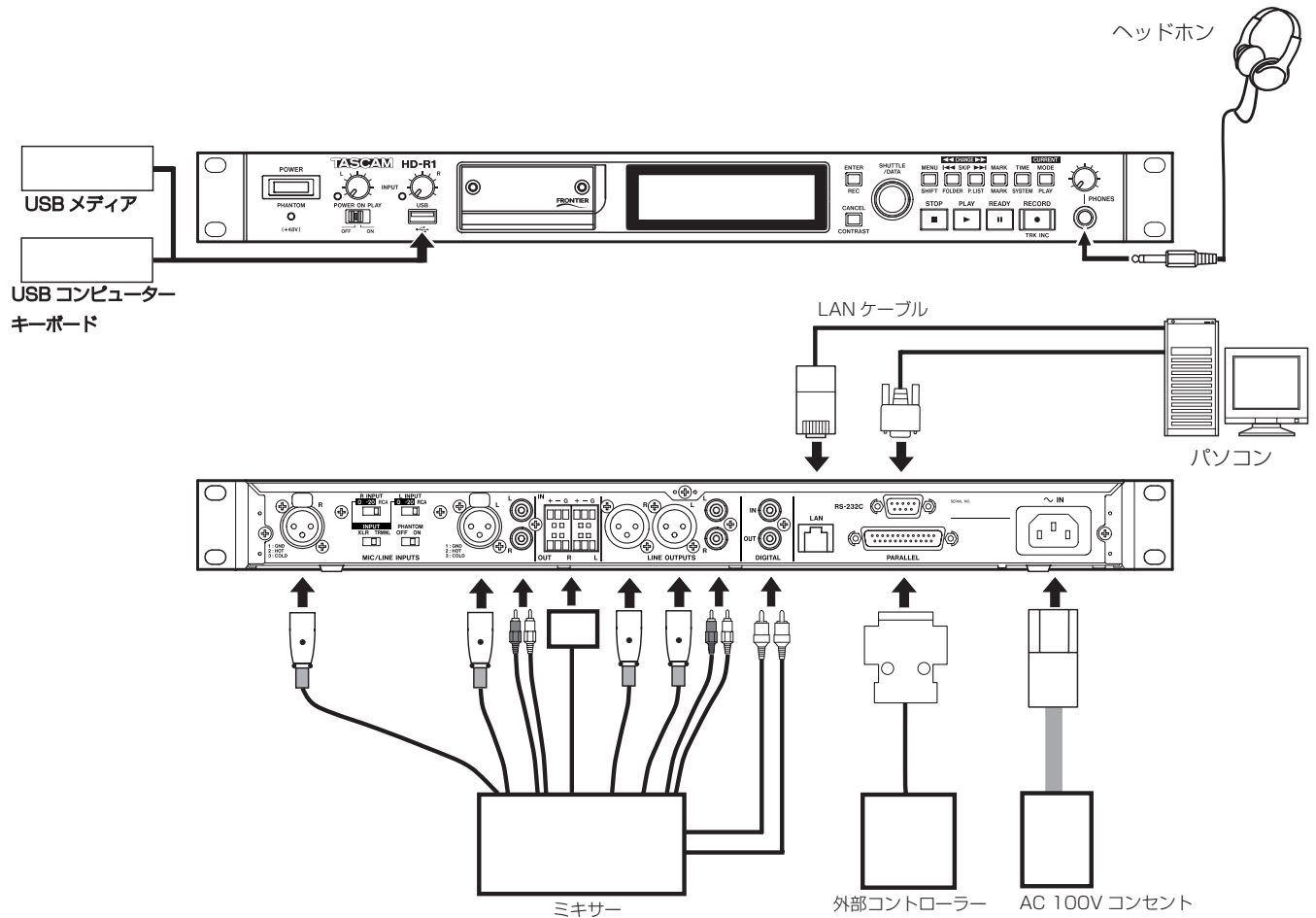
FAT16/32のシステム上は名前により多くの文字数を使用する事ができますが、本機での20文字以上の文字編集はサポートしていません。

またFATがサポートしている文字のみを使うことができます。さらに同じ名前が重複することはできません。つまり、カード上に同じ名前のプロジェクトは存在できません。プロジェクト内に同じ名前のオーディオファイルは存在できません。以下の特殊文字はFATがサポートしていないため、本機で使うことができません。

#, %, &, ', (), *, +, Comma, ", /, :, ;, <, >, ?, =, !, [], \, ., { }, ~

第3章 準備する

接続する



● 電源の接続

付属の電源コードを使って、本機の～INコネクタと100Vコンセントを接続します。

● 録音ソースの接続

アナログソースはMIC/LINE INPUTSまたはユーロブロックに接続します。XLR端子にはバランスのマイクまたはラインレベルソースを接続することができます。RCA端子には-10dBV、アンバランスのラインレベルソースを接続することができます。ユーロブロックには+4dBuのバランスソースを接続することができます。デジタルソースはDIGITAL IN端子に接続します（本機はS/PDIFデジタルに対応しています。AES/EBUデジタルソースを受け付けることができません）。

● 出力先の接続

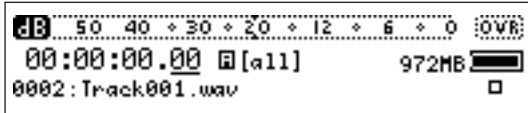
アナログ接続の場合、LINE OUTPUTSのXLR端子またはRCA端子、あるいはユーロブロックを使って接続します。デジタル接続の場合、DIGITAL OUT端子を使って接続します（本機はS/PDIFデジタル信号を出力します。AES/EBUデジタル信号を出力することはできません）。

● その他の接続

- モニター用のヘッドホンを接続するには：
フロントパネルのPHONES端子にステレオヘッドホンを接続します。
- テキスト入力用のキーボードを接続するには：
フロントパネルのUSBポートにUSBコンピュータキーボードを接続します。
- ファイルコピー用のUSBメモリを接続するには：
フロントパネルのUSBポートに接続します。
- 外部から本機をパラレル制御するには：
リアパネルのPARALLELコネクタを使って接続します。
- 外部から本機をシリアル制御するには：
リアパネルのRS-232Cコネクタを使って接続します。
- リモートコントロールやファイル転送用にLAN接続を行うには：
リアパネルのLANコネクタを使って接続します。

電源を入れる

フロントパネルのPOWERスイッチを押して電源を入れます。本機が起動し、しばらくするとディスプレイにホーム画面が表示されます。

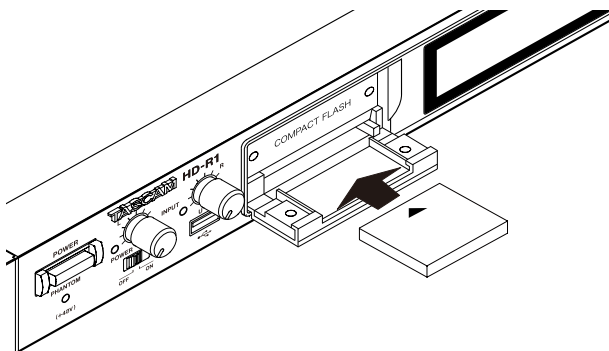


電源を切るには再度POWERスイッチを押します。

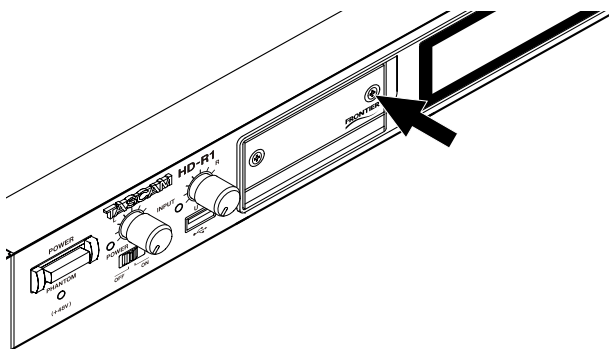
CFカードをセットする

本機はCFカード（タイプIまたはタイプII）を使って録音／再生を行います。

1. フロントパネルのCFカードスロットのドアを開けます。



2. CFカードをセットします。
3. ドアを閉じます。
4. 必要に応じて、付属の固定用セキュリティビスを使ってドアを固定します。



メモ

CFカードスロットのドアを開けたとき、警告メッセージを表示したり、あるいは自動的にCFカードをアンマウントする設定にすることができます。（→取扱説明書17ページ「System Settingsメニュー」）

CFカードを取り出す

本機の電源がオフのとき、または本機が録音／再生を行っていないときに、CFカードを取り出すことができます。

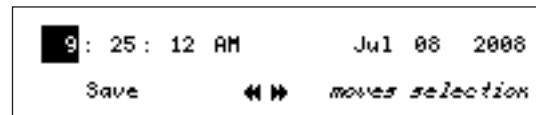
ご注意

録音中にカードを取り出すと、データの一部が失われます。録音中にカードを取り出す必要がある場合、STOPキーを押してから取り出してください。

時間を設定する

はじめに本機のシステムクロックを現在の日時に設定します。

1. MENUキーを押します。
メインメニューが表示されます。
2. SHUTTLE/DATAホイールを使ってUtilitiesを反転し、ENTERキーを押します。
Utilityメニューが表示されます。
3. SHUTTLE/DATAホイールを使ってSet System Timeを反転し、ENTERキーを押します。
設定画面が表示されます。



4. 以下の要領で、日時を設定します。
画面表示中、SKIP (◀◀ / ▶▶) キーを使ってデータフィールドを移動し、SHUTTLE/DATAホイールを使って値を変更します。
5. 設定を終えたら、SKIP (◀◀ / ▶▶) キーを使ってSAVEを反転して、ENTERキーを押します。
設定したシステムタイムが確定し、画面がUtilityメニューに戻ります。

メモ

設定をキャンセルするにはCANCELキーを押します。画面がUtilityメニューに戻るとともに、システムタイムも以前の設定に戻ります。

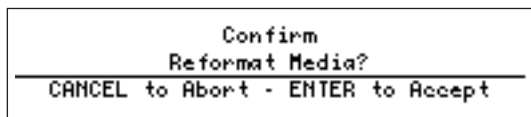
6. MENUキーを押します。
ホーム画面に戻ります。

第3章 準備する

CFカードをフォーマットする

新しいCFカードをセットした場合、CFカードをフォーマットします。

1. MENUキーを押します。
メインメニューが表示されます。
2. SHUTTLE/DATA ホイールを使って Utilities を反転し、ENTERキーを押します。
Utilityメニューが表示されます。
3. SHUTTLE/DATA ホイールを使って Media Tools を反転し、ENTERキーを押します。
Media Toolsサブメニューが表示されます。
4. SHUTTLE/DATA ホイールを使って Reformat Media を反転し、ENTERキーを押します。
以下の確認画面が表示されます。



5. ENTERキーを押します。
CFカードがフォーマットされます。
フォーマットを終了すると、終了画面が表示されます。
ENTERキーを押すと MediaTools サブメニューが表示されます。

メモ

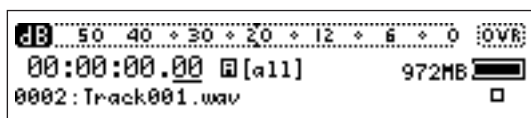
ENTERキーを押すかわりに CANCEL キーを押すと、Media Tools サブメニューに戻ります。

6. MENUキーを押します。
ホーム画面に戻ります。

ディスプレイ画面

本機の電源を入れて起動したときにホーム画面が表示されます。この画面が基本画面です。MENUキーを押してメニューモードに入ると、メインメニュー画面が表示され、それ以降の操作に応じて各種メニュー画面が表示されます。メニューモード中（=各種メニュー画面表示中）にMENUキーを押すと、メニューモードを終了してホーム画面に戻ります。

ホーム画面



再生レベルや録音（入力）レベルを示すレベルメーター、時間表示、トラック名、現在のトランスポートモードなどが表示されます。

メニュー画面

ホーム画面表示中にMENUキーを押すと、メニューモードに入り、メインメニュー画面が表示されます。

メニューの各項目に関する詳細は取扱説明書「第5章 画面とメニュー」をご覧ください。



メニューモードでは、SHUTTLE/DATA ホイールを使って項目を選択（反転）し、ENTERキーを押して選択を確定します。確定すると、サブメニューに進むか、あるいはパラメータ設定モードになるか、あるいは操作が実行されます。

サブメニューがある項目の場合、ディスプレイ右側に "▶" が表示されます。

メニューモード時にMENUキーを押すとホーム画面に戻ります。サブメニュー表示中にCANCELキーを押すと親メニューに戻ります。メインメニューを表示中にCANCELキーを押すとホーム画面に戻ります。

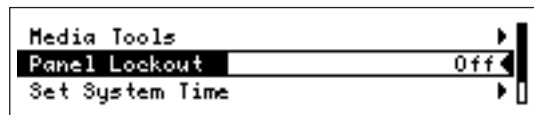
メモ

現在無効の項目は斜体で表示されます。

パネルロックについて

誤操作を防ぐために、本機のフロントパネル操作をできないようにロックすることができます。

1. MENUキーを押します。
メインメニューが表示されます。
2. SHUTTLE/DATA ホイールを使って Utilities を反転し、ENTERキーを押します。
Utilityメニューが表示されます。
3. SHUTTLE/DATA ホイールを使って Panel Lockout を反転し、ENTERキーを押します。



4. SHUTTLE/DATA ホイールを使って Off から On に切り換え、ENTERキーを押します。
ホーム画面に戻ります。
この状態ですべてのキーを受け付けません。
Panel Lockout 設定は電源をオフにしても保持されます。
フロントパネルのロックを解除するには、ENTERキー、CANCELキーおよびMENUキーを同時に押します。

メモ

フロントパネルがロックされているときでも、RS-232C、パラレルおよびLAN 経路による外部コントロールが可能です。

第4章 録音する

本機を使って、WAVまたはMP3形式でオーディオを録音することができます。

録音操作は従来のレコーダーと同じような感覚で行うことができます。

録音に関する設定を行う

録音を行う前に、メニューを使って、録音ファイルのフォーマット（WAV／MP3）選択、サンプリングレート、ビット長（WAV）や転送レート（MP3）、ステレオ／モノ選択、入力ソースなどの基本設定を行います。これらの他にも、必要に応じてさまざまな設定を行うことができます。（→取扱説明書16ページ「Record Settingsメニュー」）

また、入力ソースをアナログ入力に設定した場合、リアパネルのスイッチを使って入力に関する設定を行います

1. MENUキーを押します。
メインメニューが表示されます。
2. SHUTTLE/DATAホイールを使ってRecord Settingsを反転し、ENTERキーを押します。
Record Settingsメニューが表示されます。



メモ

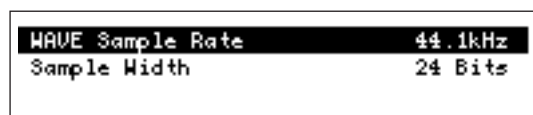
ホーム画面表示中にMENUキー（SHIFTキー）を押しながらENTERキーを押すと、直接Record Settingsメニューが表示されます。

以下の手順にて、録音ファイルフォーマット設定、ステレオ／モノ選択、入力ソース選択を行います。

3. SHUTTLE/DATAホイールを使ってFile Formatを反転し、ENTERキーを押します。
4. SHUTTLE/DATAホイールを使ってWAVまたはMP3を選択し、ENTERキーを押します。

WAVを選択した場合：

- 5A. SHUTTLE/DATAホイールを使ってWAVE Settingsを反転し、ENTERキーを押します。
WAVE Settingsサブメニューが表示されます。



このメニューで、サンプリングレート（WAVE Sample Rate）とビット長（Sample Width）を設定します。

SHUTTLE/DATAホイールを使って設定項目を反転し、ENTERキーを押し、SHUTTLE/DATAホイールを使って選択を行い、ENTERキーを押して確定します。

- WAVE Sample Rate：44.1kHz、48kHz、88.2kHz、または96kHz

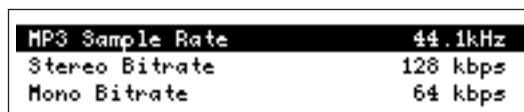
メモ

入力ソースがS/PDIFで入力信号のサンプルレートと設定したサンプルレートと異なる場合、本機は録音を開始することができず、エラーメッセージを表示します。

- Sample Width：16Bitsまたは24Bits

MP3を選択した場合：

- 5B. SHUTTLE/DATAホイールを使ってMP3 Settingsを反転し、ENTERキーを押します。
MP3 Settingsサブメニューが表示されます。



このメニューで、サンプリングレート（MP3 Sample Rate）とビットレート（Stereo Bit Rate、Mono Bit Rate）を設定します。ビットレートはステレオ録音時とモノラル録音時とで個別に設定することができます。

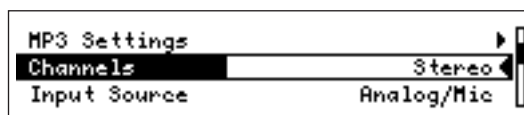
SHUTTLE/DATAホイールを使って設定項目を反転し、ENTERキーを押し、SHUTTLE/DATAホイールを使って選択を行い、ENTERキーを押して確定します。

- MP3 Sample Rate：44.1kHzまたは48kHz

メモ

入力ソースがS/PDIFで入力信号のサンプルレートと設定したサンプルレートと異なる場合、本機は録音を開始することができず、エラーメッセージを表示します。

- Stereo Bit Rate：64kbps、80kbps、96kbps、112kbps、128kbps、160kbps、192kbps、224kbps、256kbpsまたは320kbps
 - Mono Bit Rate：32kbps、40kbps、64kbps、80kbps、96kbps、112kbps、128kbpsまたは160kbps
6. 手順5A.または5B.で設定を終えたら、CANCELキーを押してRecord Settingsメニューに戻ります。
 7. SHUTTLE/DATAホイールを使ってChannelsを反転し、ENTERキーを押します。
この項目で録音チャンネルモードを選択します。



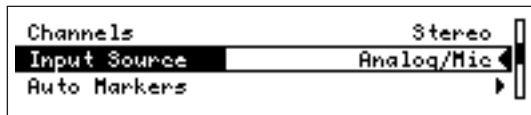
第4章 録音する

8. SHUTTLE/DATA ホイールを使ってチャンネルモードを選択し、ENTERキーを押します。

- Stereo：ステレオ録音を行います。
- Mono Right：Rチャンネル入力がモノラルで録音されます。
- Mono Left：Lチャンネル入力がモノラルで録音されます。

9. SHUTTLE/DATA ホイールを使ってInput Sourceを反転し、ENTERキーを押します。

この項目で録音入力ソースを選択します。



10. SHUTTLE/DATA ホイールを使って録音入力ソースを選択し、ENTERキーを押します。

- Analog/Mic：リアパネルのMIC/LINE INPUTS（XLR端子、RCA端子またはユーロ端子）からの入力がソースになります。
- S/PDIF：リアパネルのDIGITAL IN端子からの入力がソースになります。

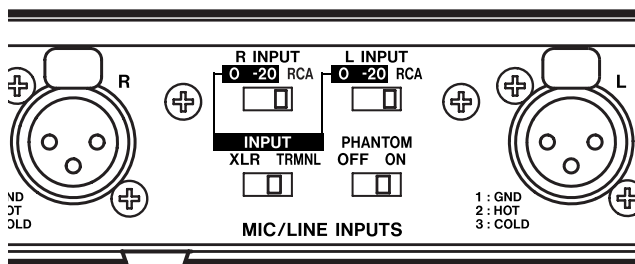
メモ

Analog/Micを選択した場合、以下の手順12.以降に述べるリアパネルのスイッチ設定を行います。

11. 必要に応じて、録音に関するその他のメニュー設定を行います。それらの項目については、取扱説明書16ページ～17ページの「Record Settingsメニュー」をご覧ください。

12. メニュー設定を終えたらMENUキーを押してディスプレイをホーム画面に戻します。

13. 上記手順10.でAnalog/Micを選択した場合、使用するアナログ入力に応じてリアパネルのスイッチを以下のように設定します。



XLR入力使用時：

- INPUTスイッチをXLRに設定します。
- L INPUTおよびR INPUTスイッチを0または-20に設定します。
-20では20dBのパッドが有効になります。入力レベルが大き過ぎる場合、-20に設定してください。
- +48Vファントム電源を必要とするコンデンサーマイク接続時は、PHANTOMスイッチをONに設定します。

ユーロブロック使用時：

- INPUTスイッチをTRMNLに設定します。

RCA入力使用時：

- L INPUTおよびR INPUTスイッチをRCAに設定します。

録音の基本操作

設定を終えたら録音を行ってみましょう。録音を行うたびに、新しいファイルが自動的に作成されます。

1. RECORDキーを押します。
録音待機になり、入力モニターがオンになります。RECORDキーとREADYキーが点灯します。
2. ホーム画面のメーターで入力レベルをチェックします。
Analog/Mic入力時はフロントパネルのINPUT VRつまみでレベル調整ができます。Input SourceがS/PDIFのときにはレベル調整ができません。
レベルが適正でない場合はソース側で調節してください。

メモ

PHONESジャックにヘッドホンを接続してモニターを行う場合、PHONESつまみでレベルを調節することができます。このつまみはヘッドホンに対してのみ働き、リアパネルのLINE OUTPUTS端子の出力レベルには影響を与えません。

3. PLAYキーを押して録音を開始します。
RECORDキーとPLAYキーが点灯します。
4. 録音を終えたらSTOPキーを押します。
ファイルが作成されます。
デフォルトではTrack001、Track002.....というファイル名が自動的に付けられます。

録音を一時停止するにはREADYキーを押します。このときもファイルが作成され、次に録音を行うと新たなファイルが作成されます。

メモ

録音時に作成されるオーディオファイルはカレントフォルダに収納されます。また、再生モードがプレイリストに設定されている場合、作成されたオーディオファイルがカレントプレイリストに自動登録されます。カレントフォルダ、プレイリストについては「フォルダとプレイリスト」（13ページ）をご覧ください。再生モードについては「再生モードを設定する」（12ページ）をご覧ください。

その他の録音機能

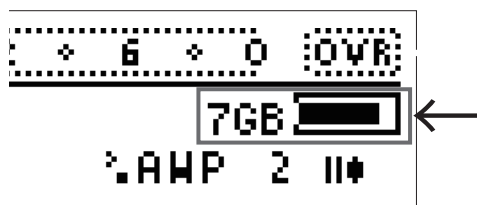
さらに **Record Settings** メニューを使って、以下の機能設定を行うことができます。

- 録音時に、一定時間毎や入力クリップ点でマーカを自動セットすることができます。
- 録音待機時に入力信号をバッファに保持するプリレコード機能のオン/オフを設定できます。
- オーディオファイルの最大サイズを設定できます。
- 一定レベル以上の信号が入力されると録音を自動的に開始するシンクレック機能のオン/オフを設定できます。
- 新規ファイルに自動的に付加される名前のベースを設定できます。
- マーカーに自動的に付加される名前のベースを設定できます。

これらについては、取扱説明書「Record Settings メニュー」(16ページ)をご覧ください。

メディア容量と録音

録音中、画面内のメディアスペースインジケータがスペース残量に応じた表示を行います。



本機はスペースを使い切った時点で録音を終了し、ファイルをクローズして、画面にスペースがなくなったことを告げるメッセージを表示します。

FATファイルシステム内の各ファイルの最大サイズは2GBに制限されています。ファイルサイズがこの制限に達すると、本機はファイルをクローズし、新規ファイルを作成して録音を継続します。この場合、録音が途切れることはありませんので、ファイルをDAWなどでつなぐことができます。また本機の再生モードをプレイリストにした場合、本機はこれらのファイルを途切れなく再生することができます。

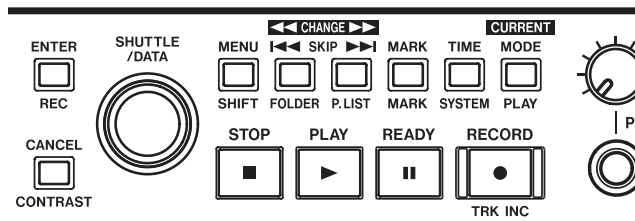
第5章 再生する

本機の再生の基本操作および、再生モードについて説明します。

再生の基本操作

初期設定では、カード上の全ファイルが再生対象になり、録音した順にファイルが再生されます。

トランスポートキーの操作は通常のCDプレーヤーなどと同様です。



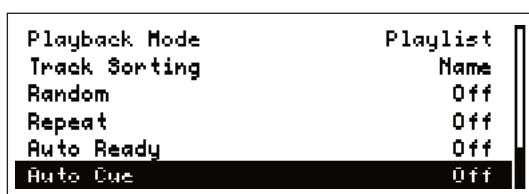
- 再生を始めるには **PLAY** キーを押します。
- 停止中または再生中にトラック（ファイル）を前後にスキップするには **SKIP** (◀◀ / ▶▶) キーを押します。
- 停止中または再生中に早送り、早戻しをするには、**SKIP** (◀◀ / ▶▶) キーを押したままにします。
- 再生を一時停止するには **READY** キーを押します。次に再生を行うと、一時停止した位置から再生が始まります。
- 再生を停止するには **STOP** キーを押します。次に再生を行うと、再生エリアの先頭から再生が始まります。
- **SHUTTLE/DATA** ホイールを回すと、前後のトラック／マーカーに再生ポイントが移動します。ただし時間単位（時間、分、秒、1/100秒）で移動するように変更することができます（→取扱説明書 17 ページ「System Settings メニュー」）。
- **STOP** キーを押しながら **SKIP** (◀◀ / ▶▶) キーを押すと、再生対象範囲の最初／最後のトラックの頭にロケートします。

再生モードを設定する

本機では再生モードの設定により、全曲再生、一曲再生、フォルダ再生、プレイリスト再生を行うことができます。フォルダ再生では、選択したフォルダ（カレントフォルダ）内のファイルが再生対象になります。プレイリスト再生では、選択したプレイリスト（カレントプレイリスト）に登録されているファイルが再生対象になります。（→ 13 ページ「フォルダとプレイリスト」）。

以下の手順で再生モードを選びます。

1. **MENU** キーを押します。
メインメニューが表示されます。
2. **SHUTTLE/DATA** ホイールを使って **Play Settings** を反転し、**ENTER** キーを押します。
Play Settings メニューが表示されます。



メモ

ホーム画面表示中に **MENU** キー（**SHIFT** キー）を押しながら **MODE** キーを押すと、直接 **Play Settings** メニューが表示されます。

3. **SHUTTLE/DATA** ホイールを使って **Playback Mode** を反転し、**ENTER** キーを押します。
4. **SHUTTLE/DATA** ホイールを使って再生モードを選択し、**ENTER** キーを押します。
 - **All**：カード上の全ファイルが再生対象になります。
 - **Single**：カード上の全ファイルが再生対象になりますが、1曲再生を終えると停止します
 - **Folder**：カレントフォルダ内の全ファイルが再生対象になります。
 - **Playlist**：カレントプレイリスト内の全ファイルが再生対象になります。

フォルダやプレイリストの作成方法やカレントフォルダ、カレントプレイリストの選択方法は、「フォルダとプレイリスト」をご覧ください。また詳しい説明は取扱説明書「Folder メニュー」（13 ページ）、「Playlist メニュー」（13 ページ）をご覧ください。

メモ

本機の電源を入れてCFカードをセットしたとき、以前使ったフォルダやプレイリストが見つかったとき、本機は前回と同じ再生モードに入ります。以前使ったフォルダやプレイリストが見つからない場合は自動的に再生モードが **All** に設定されます。

その他の再生機能

再生範囲内のファイルをランダムに再生するランダム再生、再生範囲を繰り返し再生するリピート再生、ファイルの再生を終えると次のファイルの頭で再生待機するオートレディ機能、再生待機時に音の始まるポイントで待機するオートキュー機能といった再生機能があります。これらの設定方法については取扱説明書の「PlaySettingsメニュー」（15 ページ）をご覧ください。

第6章 フォルダとプレイリスト

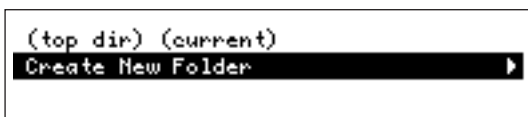
オーディオファイルをフォルダに分類して保管することにより、効率的な管理を行うことができるとともに、フォルダ単位の再生を行うことができます。また、必要に応じてプレイリストを作成してオーディオファイルを登録することにより、希望のファイルを希望の順に再生することができます。(→ 12ページ「再生モードを設定する」)

新規フォルダを作成する

パソコンのファイル管理と同じように、フォルダを作成することにより、ジャンル別、アーティスト別など、ファイルを分類して保管することができます。フォーマット直後のCFカードにはフォルダが作成されていません。この状態で録音を行うと、カードの第一階層(トップディレクトリ)上にオーディオファイルが作成されます。フォルダはFAT16フォーマット時には、トラックと合わせてルートディレクトリに256個まで、サブディレクトリに65534個まで作成でき、FAT32フォーマット時にはルートディレクトリに65535個まで、サブディレクトリに65534個まで作成できます。HD-R1は第1階層フォルダ内までのオーディオファイルのみを読み込むことができます。第2階層以降のフォルダにあるオーディオファイルは読むことができません。

以下の手順でフォルダを作成することができます。

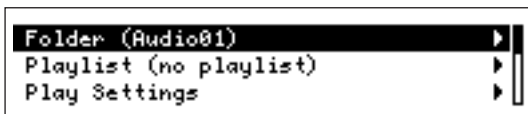
1. MENUキーを押します。
メインメニューが表示されます。
2. SHUTTLE/DATAホイールを使ってFolderを反転し、ENTERキーを押します。
Folderメニューが表示されます。



メモ

ホーム画面表示中にMENUキー(SHIFTキー)を押しながらSKIP◀◀キーを押すと、直接Folderメニューが表示されます。

3. SHUTTLE/DATAホイールを使ってCreate New Folderを反転し、ENTERキーを押します。
新規フォルダ "Audio01" が作成され、このフォルダがカレントフォルダになります。
録音時に作成されるオーディオファイルは、カレントフォルダ内に保存されます。



フォルダの名前編集や削除を行うことができます。これらの操作方法については、取扱説明書の「Manage Folders/Filesメニュー」(21ページ)をご覧ください。

カレントフォルダを選択する

再生モード(→ 12ページ「再生モードを設定する」)がFolderのとき、カレントフォルダが再生範囲になります。カレントフォルダを選択するには、以下のいずれかの操作を行います。

操作1 (メニューを使う)

1. 上記「新規フォルダを作成する」の手順1.と2.を行い、Folderメニューを表示します。
2. SHUTTLE/DATAホイールを使って希望のフォルダを反転し、ENTERキーを押します。
フォルダがロードされてカレントフォルダになります。

操作2 (パネルキーを使う)

MODEキーを押しながらSKIP▶▶キーまたはSKIP◀◀キーを押します。
カレントフォルダがアルファベット順または逆順に変更されます。

メモ

カレントフォルダは再生モードがFolderに設定されているときの再生範囲になるだけでなく、録音時に作成されるファイルは(再生モードにかかわらず)常にカレントフォルダ内に記録されます。

プレイリストを作成する

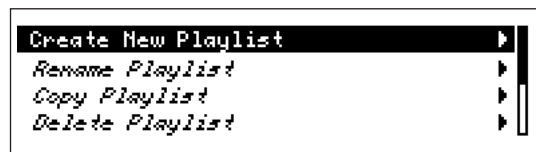
本機のプレイリスト再生モードでは、現在選択されているプレイリスト(カレントプレイリスト)内に登録されているオーディオファイル(トラック)を再生することができます。フォーマット直後のCFカードにはプレイリストが作成されていません。プレイリストは必要に応じていくつでも作成することができます。

メモ

再生モードをPlaylistに設定しているとき、録音を行うと新しいファイルがカレントプレイリストに追加登録されます。

以下の手順でプレイリストを作成することができます。

1. MENUキーを押します。
メインメニューが表示されます。
2. SHUTTLE/DATAホイールを使ってPlaylistを反転し、ENTERキーを押します。
Playlistメニューが表示されます。

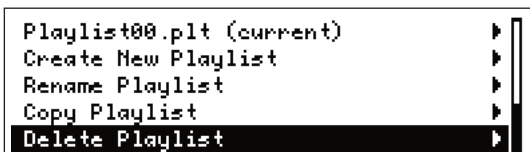


メモ

ホーム画面表示中にMENUキー(SHIFTキー)を押しながらSKIP▶▶キーを押すと、直接Playlistメニューが表示されます。

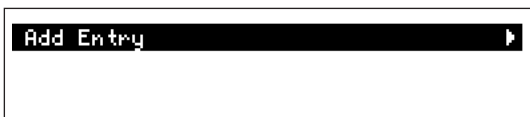
第6章 フォルダとプレイリスト

3. SHUTTLE/DATA ホイールを使って **Create New Playlist** を反転し、**ENTER** キーを押します。
プレイリスト (**Playlist00**) が作成され、このプレイリストがカレントプレイリストになります。



4. **Playlist00 (current)** が反転した状態で **ENTER** キーを押します。

プレイリストの内容表示画面に変わります。新規に作成したプレイリストではまだファイルが登録されていないので、以下のように、"**Add Entry**" のみが反転表示されます。



以下の手順でファイルをプレイリストに登録します。

5. "**Add Entry**" が反転している状態で **ENTER** キーを押します。
カードの第一階層上のファイル/フォルダが表示されます。
フォルダを反転して **ENTER** キーを押すと、フォルダ内のファイル/フォルダが表示されます。
6. プレイリストに登録したいファイルを反転し、**ENTER** キーを押します。
ファイルがプレイリストに登録されます。
ディスプレイが手前の画面（プレイリストの内容表示画面）に戻り、プレイリストにファイルが登録されたことを確認できます。手順4.のときは "**Add Entry**" が表示されていますが、ひとつでもファイルが登録されると "**Add Entry To Bottom**" 表示になります。
7. さらにプレイリストにファイルを追加登録する場合、"**Add Entry To Bottom**" を反転して **ENTER** キーを押します。
上記の手順5.を実行後と同じ画面になります。
8. 上記手順6.と同じように、プレイリストに登録したいファイルを反転し、**ENTER** キーを押します。
ファイルがプレイリストの最後に登録され、ディスプレイがプレイリストの内容表示画面に戻ります。
9. 必要なだけ、手順7.と8.を繰り返します。

プレイリストの名前編集、コピー、削除を行うことができます。また登録したファイルの順番変更、削除、再生開始点/終了点の設定、フェードイン/アウト設定、再生ボリューム設定などを行うことができます。これらの操作方法については、取扱説明書「[Playlistメニュー] (13ページ) をご覧ください。

カレントプレイリストを選択する

再生モード (→ 12ページ「再生モードを設定する」) が **Playlist** のとき、カレントプレイリストが再生範囲になります。カレントプレイリストを選択するには、以下のいずれかの操作を行います。

操作1 (メニューを使う)

1. 上記「新規プレイリストを作成する」の手順1.と2.を行い、**Playlist** メニューを表示します。
2. SHUTTLE/DATA ホイールを使って希望のプレイリストを反転し、**ENTER** キーを押します。
プレイリストがロードされてカレントプレイリストになります。

操作2 (パネルキーを使う)

MODE キーを押しながら **SKIP ▶▶** キーまたは **SKIP ◀◀** キーを押します。
カレントプレイリストがアルファベット順または逆順に変更されます。

ファイル内にマーカーをセットしておくことにより、希望の位置に簡単にロケートすることができます。

マーカーをセットする

録音時や再生時、**MARK** キーを押すと現在の位置にマーカーがセットされます。

録音時に、一定時間毎や入力クリップ点でマーカーを自動セットすることができます。**Record Settings** メニューの **Auto Markers** 項目を使います。(→ 取扱説明書 16 ページ「Record Settings メニュー」)

マーカーにロケートする

初期設定では **SHUTTLE/DATA** ホイールを使って前後のマーカーにロケートすることができます。ただし、**SHUTTLE/DATA** ホイールの働きを変更することもできます。(→ 取扱説明書 17 ページ「System Settings メニュー」)

マーカーの名前を設定する

新規のマーカーには、自動的に名前が付加されます。この名前のベースを **Record Settings** メニューの **Marker Base Name** 項目を使って設定することができます。(→ 取扱説明書 16 ページ「Record Settings メニュー」)

マーカーを編集する

Manage Folders/Files メニューを使って、マーカーの削除、位置（時間）編集、名前編集を行うことができます。詳しくは取扱説明書「Manage Folders/Files メニュー」(21 ページ) をご覧ください。

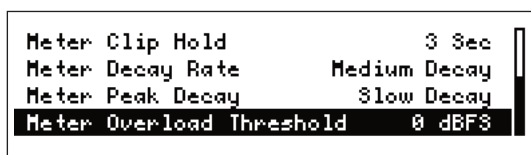
第8章 システムの設定を行う

System Settings メニューを使ってさまざまなシステム設定を行うことができます。以下に、主な設定を紹介します。詳しい説明およびその他の設定については、取扱説明書「System Settings メニュー」(17ページ)をご覧ください。

System Settings メニューを表示するには、**MENU** キーを押してメインメニューを表示し、**SHUTTLE/DATA** ホイールを使って **System Settings** を反転して **ENTER** キーを押します。あるいは **MENU** キー (**SHIFT** キー) を押しながら **TIME** キーを押します。**System Settings** メニュー表示中に **SHUTTLE/DATA** ホイールを使ってそれぞれの項目を選択して、設定を行います。

メーターの設定

Metering 項目を反転して **ENTER** キーを押すと、以下のサブメニューが表示されます。



この画面から、メータークリップ時のオーバーロードインジケータのホールドタイム、メーターのディケイスピード、メーターピークのディケイスピード、メーターオーバーロード点灯のスレッシュホールドレベルを設定することができます。

詳しくは取扱説明書「Metering サブメニュー」(18ページ)をご覧ください。

リジュームモードの設定

Resume 項目を反転して **ENTER** キーを押すと、リジュームモードのオン/オフを設定することができます。

オンに設定すると、本機が **STOP** キーを押したときの位置を記憶し、次に再生を行うときにその位置から続きを再生します。

この設定は電源を切ったときも有効で、電源再投入して再生を行うときにもその位置から続きを再生します。

シャトルモードの設定

Shuttle Mode 項目を反転して **ENTER** キーを押すと、**SHUTTLE/DATA** ホイールによるトランスポートコントロールのモードを設定することができます。

初期設定ではトラック開始点とマーカーにスキップしますが、時間、分、秒あるいは1/100秒単位でスキップするように設定できます。

アナログ基準レベルの設定

Ref Level 項目を反転して **ENTER** キーを押すと、アナログ基準レベルを設定することができます。基準レベルは、デジタルオーディオレベル (dBFS) とアナログ基準レベル (dBu) の対応関係で示されます。

オーディオシステム環境に合わせて設定してください。

コントラストの調節

Adjust Contrast 項目を反転して **ENTER** キーを押すと、**SHUTTLE/DATA** ホイールを使ってディスプレイのコントラストを調節することができます。調節したコントラスト設定は電源をオフにしても記憶されます。

なお、ホーム画面表示中に **MENU** キー (**SHIFT** キー) を押しながら **CANCEL** キーを押すと、直接コントラスト調節画面が表示されます。調整後、**CANCEL** キーまたは **MENU** キー (**SHIFT** キー) を押します。

第9章 設定をプリセットとして保存する

本機は **Play Settings** メニュー、**Record Settings** メニュー、**System Settings** メニューを使って行った録音、再生、システムに関する現在の設定を、プリセットファイルとしてCFカード上に保存することができます。

Play Settings メニューと **Record Settings** メニューの設定は、同じプリセットファイル内に保存されますが、**System Settings** メニューの設定は別のプリセットファイルとして保存されます。保存したプリセットは必要に応じて呼び出したり、別のHD-R1でロードすることができます。また**Play Settings** メニューと **Record Settings** メニューのプリセットファイルはCFカードだけでなく、本機の内部メモリー内にも保存できます。**System Settings** メニューのプリセットファイルはCFカード上に保存されます（内部メモリー内には保存できません）。

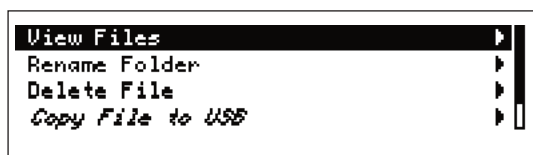
プリセットの保存は **Manage Settings** メニューを使って行います。詳しくは取扱説明書「**Manage Settings** メニュー」（20ページ）をご覧ください。

第10章 オーディオファイルを編集する

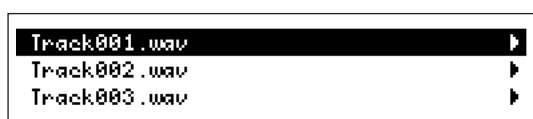
作成されたオーディオファイルの名前編集、削除、コピーなどを行うことができます。またオーディオファイルにセットされているマーカの編集や削除も可能です。

CFカードだけでなく、本機にセットしたUSBメモリのオーディオファイルも編集対象になります。

オーディオファイルの編集は **Manage Folders/Files** メニューを使って行います。このメニューを開き、**Compact Card** または **USB** を選択した後、目的のファイルを収納しているフォルダを選択し、**View Files** を選択すると、フォルダ内の全ファイルがリスト表示されます。

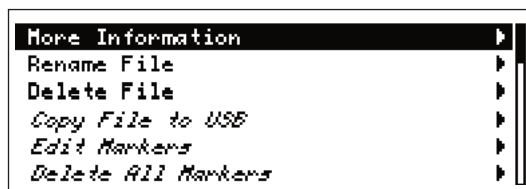


[View Files の表示されている画面]



[ファイルリスト画面]

このリストから目的のファイルを選択すると、以下のような画面が表示されます。



この画面で編集項目を選んで編集を行います。詳しくは取扱説明書「**Manage Folder/Files** メニュー」（21ページ）をご覧ください。

メモ

フォルダを選択後、**Rename Folder** や **Delete Folder** を選ぶことにより、フォルダ名の編集やフォルダの削除を行うことができます。

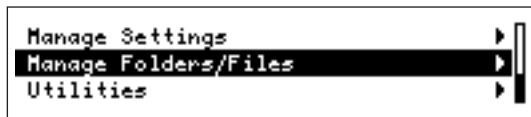
第11章 ファイルを転送する

本機では、CFカードとUSBメモリ間のファイル転送（コピー）が可能です。また、LANを経由してコンピュータと接続することにより、本機とコンピュータ間のファイル転送（コピー）が可能です。

CFカードとUSBメモリ間のファイル転送

本機にCFカードとUSBメモリがセットされているとき、これらのメディア間でファイルを転送することができます。

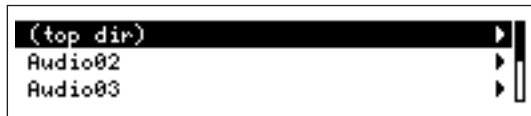
1. MENUキーを押してメインメニューを表示します。
2. Manage Folders/Filesメニューを反転して、ENTERキーを押します。



転送したファイルを選択します。

Copy File to USB（CFカードからUSBメモリに転送する場合）を選択します。

3. 転送元（コピー元）のメディアを反転して、ENTERキーを押します。
転送先のメディアのトップディレクトリが表示されます。



4. 転送先のフォルダまたは (top dir) を選び、ENTERキーを押します。
ファイル転送が始まります。

メモ

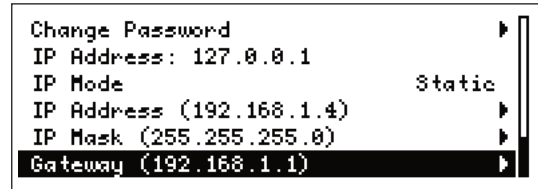
本機はファイル操作を行う直前にUSBメモリをマウントし、ファイル操作を終了するとアンマウントします。ファイル操作中はUSBメモリを取り出さないでください。

本機とコンピュータ間のファイル転送

本機とコンピュータをLAN接続することにより、本機にセットしているCFカードとコンピュータ間でファイルを転送（コピー）することができます。

1. パソコンと本機をLANクロスケーブルで直接接続します。
あるいは市販のブロードバンドルーターを使用すると、LANストレートケーブルで接続することができます。
2. MENUキーを押してメインメニューを表示します。

3. System Settingsメニューを反転して、ENTERキーを押します。

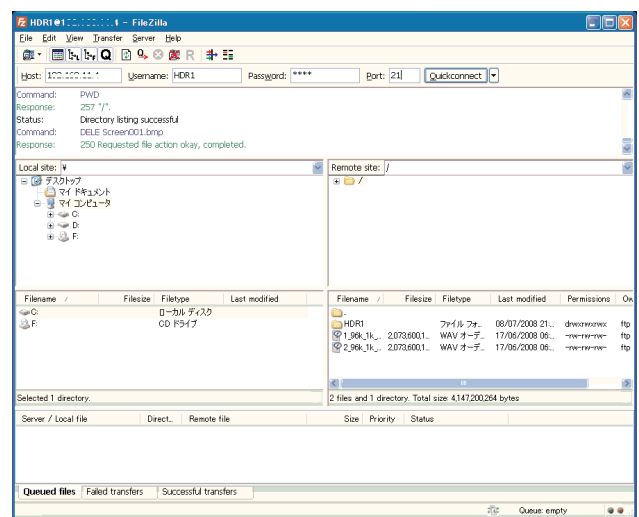


4. Networkを反転して、ENTERキーを押します。
5. IP Mode項目を反転してENTERキーを押すと、IPアドレスを固定にするか自動取得（DHCP）にするかを選択できます。

メモ

DHCPを選択する場合は、ネットワーク環境がDHCPに対応している必要があります。

6. Unicodeに対応したFTPアプリケーションを起動して、以下の設定をおこなってください。（FTPアプリケーションはFileZillaを推奨しています）
ホスト：IPアドレスを入力してください。
Username：HDR1
Password：hdr1（デフォルト値）
Port：21
7. 接続ボタンを押してください。右側にHD-R1のCFメディア、左側にPCのメディアが表示されます。



8. FTPアプリケーションを使ってファイルの送受信を行います。

第12章 ダッキング機能を使う

本機はダッキング機能を搭載しています。この機能を使うことにより、アナログ入力信号を本機に入力したときにレコーダーの再生信号を自動的に減衰したり、逆にレコーダーを再生したときにアナログ入力信号を減衰することができます。具体的な使用例として、BGM送出中にアナウンスが入るとBGMの音量を自動的に下げることができます。

ダッキング機能を使うには、**System Settings** メニューの **Ducking** サブメニューでダッキングモード (**Ducking Mode**) を "**Attenuate Playback**" または "**Attenuate Input**" にします。このサブメニューで、アナログ入力のスレッシュホールドレベル、再生信号の減衰量、アナログ入力がなくなってから再生信号を通常レベルに戻すまでの時間を設定することができます。(→ 取扱説明書 18ページ「Duckingサブメニュー」)

第13章 外部から本機をコントロールする

USB コンピュータキーボードを使う

フロントパネルのUSBポートにコンピュータ用のUSBコンピュータキーボードを接続することによって、本機のトランスポートコントロール、メニューの呼び出し、メニュー操作などをキーボードから行うことができます。キーの割り当てについては、取扱説明書「USBコンピュータキーボードを使った操作」(26ページ)をご覧ください。

パラレル制御を行う

リアパネルの**PARALLEL**ポートを使って、外部から本機の再生をコントロールすることができます。概要や端子のピン割り当てについては、取扱説明書「USBコンピュータキーボードを使った操作」(26ページ)をご覧ください。

パラレルポートに関するメニュー設定については、取扱説明書「Parallel Portサブメニュー」(19ページ)をご覧ください。

シリアル制御を行う

リアパネルのRS-232Cポートを使って、外部から本機のトランスポートコントロールや各種設定を行うことができます。詳細については、取扱説明書「RS-232Cシリアルインターフェイス」(29ページ)をご覧ください。

第14章 メニューリスト

Level 0	Level 1	Level 2	Level 3
		L Network	— Change Password L IP Address : 127 . 0 . 0 . 1 L IP Mode L IP Address (192 . 168 . 1 . 4) L IP Mask (255 . 255 . 255 . 0) L Gateway (192 . 168 . 1 . 1)
		L Parallel Port	— Parallel Mode L Input Polarity L Busy1 Signal L Busy1 Polarity L Busy2 Signal L Busy2 Polarity
		L Resume	— (Off), On
		L Shu t t le Mode	— (Ttack/Mark Only), Hours, Minutes, Seconds, Hundredths
		L Ref Level	— (-20dBFS=+4dBu), -18dBFS, -16dBFS, -14dBFS, -12dBFS, -10dBFS, -8dBFS, -6dBFS, -4dBFS, -2dBFS, 0dBFS, +2dBFS, +4dBFS, +6dBFS, +8dBFS, +10dBFS, +12dBFS, +14dBFS, +16dBFS, +18dBFS, +20dBFS
		L CF Door Action	— (Off), Show Warning, Unmount CF
		L Keyboard Type	— (English), Japanese
		Audio Clock Information	— Sample Rate[Internal] L S/PDIF Input
		Adjust Contrast	— Adjust Contrast with JOG
		Playlist Defaults	— Trigger Mode L Interruptible L Repeat Count L Attenuation
	L Manage Settings	— Manage Play/Rec Settings	— Settings File (Setting File Name) L New Settings File L Save as Preset L Delete Settings
		L Manage System Settings	— Load From File L Save To File L Delete File
	L Manage Files/Folders	— Compact Flash	— (Top dir)
		L USB	L Select Files
			L Select Folder
	L Utilities	— Media Tools	— Media Information L Media Speed Check L Format Media
		L Panel Lockout	— (Off),On
		L Set System Time	— Input Day and Time
		L Software Version	— Display Software version

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く 10:00～12:00/13:00～17:00 です。

タスカム営業技術 〒206-8530 東京都多摩市落合 1-4-7



® 0120-152-854

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、
通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く 9:30～17:00 です。

ティアック修理センター 〒190-1232 東京都西多摩郡瑞穂町長岡 2-2-8



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

市内通話料でOK
ナビダイヤル® 0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話
番号（下記）にお掛けください。

新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、
「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあり
ます。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の
電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合 1-4-7

<http://www.tascam.jp/>

Printed in China